

2019年3月期 第1四半期決算 連結業績概要

2018年8月6日

太陽誘電株式会社
経営企画本部長
増山 津二

決算サマリー

2019年3月期第1四半期 業績概要

- 売上高596億円(前四半期比横ばい)、営業利益60億円(同34%増)。自動車向けの需要が、コンデンサ中心に堅調。

2019年3月期 業績予想

- 上期の業績予想を上方修正。自動車・産業機器の電子化やスマートフォンの高機能・高性能化により、高信頼性商品や最先端商品の需要が期初予想を上回る水準で推移する見込み。
- それを反映し、通期業績予想も上方修正。

2019年3月期第1四半期 業績概要

売上高は前期第4四半期とほぼ同水準の596億円。
営業利益は前四半期比34%増益の60億円。
電装化が進む自動車向けの需要が、コンデンサを中心に堅調。

2019年3月期 業績予想

5月に発表した業績予想を上方修正。
上期は、自動車・産業機器向けの高信頼性商品や、
季節的にこれから生産が立ち上がる新型スマートフォン向けハイエンド商品を中心に
旺盛な需要が続くと見込まれる。
この上期予想の売上・利益の増加分を反映し、通期予想も上方修正。

連結業績概要(前四半期比)						
百万円	2018年3月期 第4四半期		2019年3月期 第1四半期		増減	
売上高	59,883	100.0%	59,576	100.0%	△307	△0.5%
営業利益	4,460	7.4%	5,981	10.0%	1,520	34.1%
経常利益	3,935	6.6%	6,896	11.6%	2,960	75.2%
親会社株主に 帰属する当期純利益	3,675	6.1%	5,645	9.5%	1,970	53.6%
対米ドル期中平均レート	110.62円		107.76円		2.86円円高	
為替変動による影響額	売上高 △11億円、営業利益 △7億円 ※米ドル以外の通貨影響含む					
研究開発費	2,781		3,246		464	16.7%
設備投資額	8,040		5,038		△3,001	△37.3%
減価償却費	6,733		6,065		△668	△9.9%
※ 2018年4月に当社の連結子会社となったエルナー株式会社の業績は、上記連結業績概要には含まれていません。						
©TAIYO YUDEN 2017						
TAIYO YUDEN						
3						

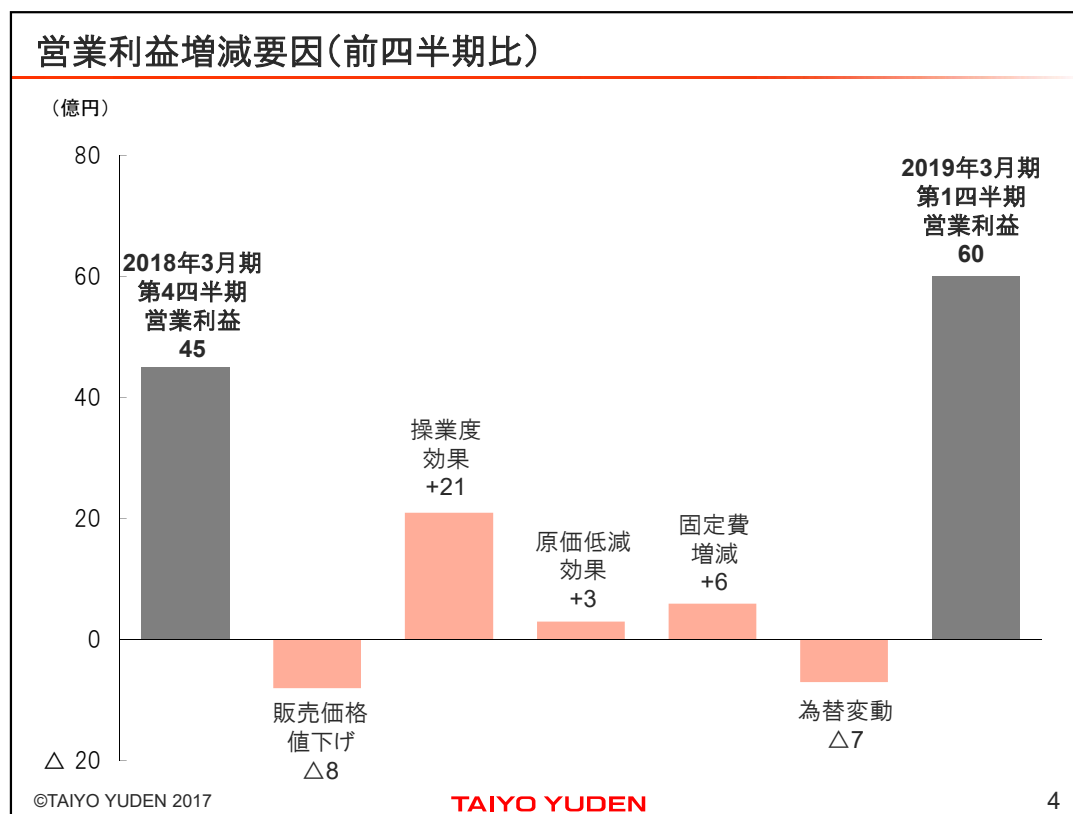
売上高はほぼ5月時点の想定通りに着地、営業利益は想定を上回った。

為替差益や助成金収入を中心に11億円の営業外収益を計上。
その結果、経常利益は69億円、親会社株主に帰属する当期純利益は56億円。

期中平均の為替レートは、1ドル107.76円。第4四半期に対して2.86円の円高。
これによる影響は、売上高に対してマイナス11億円、
営業利益に対してはマイナス7億円。

研究開発費は32億円、第4四半期から5億円増加。
設備投資額は50億円。第4四半期から30億円減少だが、
投資計画に沿った能力増強を進めている。
減価償却費は61億円、第4四半期に対して7億円減少。

なお、4月に子会社となったエルナー株式会社の4-6月期業績は、
本日発表した当社連結業績には含まれていない。
エルナー社の決算発表日は8月10日を予定しており、
その数値は当社の7-9月期に連結される予定。
また、別途公表した決算短信においては、連結損益計算書には含まれないが、
連結貸借対照表にはエルナー社が子会社となった4月3日時点の数値を含む。



増益要因として、操業度効果21億円。
 操業度効果には、販売数量増加やミックス改善、棚卸資産の増減などの影響が含まれる。
 6月末の全社の棚卸資産は、エルナー分や為替影響など、利益増減に影響がない部分を除いた実態ベースで3月末から約30億円増加。コンデンサを中心に、第2四半期以降の出荷ピーク期に備えて作り込みを継続。

このほか、原価低減効果3億円、固定費の減少6億円が増益要因。

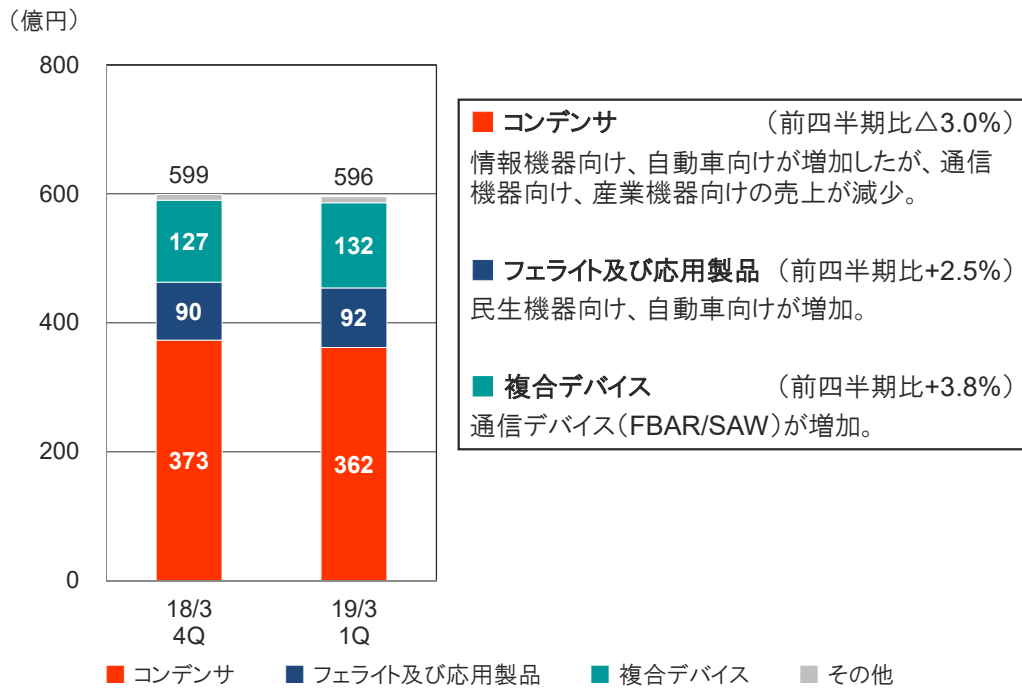
減益要因は、販売価格値下げ8億円、為替変動7億円。
 需給ひっ迫を背景に、主にコンデンサの価格下落がこれまでに比べて軽減された。

その結果、営業利益は第4四半期から15億円増加し、60億円。

製品別売上高(前四半期比)

百万円	2018年3月期 第4四半期		2019年3月期 第1四半期		増減	
コンデンサ	37,290	62.3%	36,184	60.7%	△1,106	△3.0%
フェライト及び応用製品	9,006	15.0%	9,228	15.5%	221	2.5%
複合デバイス	12,722	21.2%	13,208	22.2%	485	3.8%
その他	863	1.4%	954	1.6%	91	10.6%
合計	59,883	100.0%	59,576	100.0%	△307	△0.5%

製品別売上高(前四半期比)

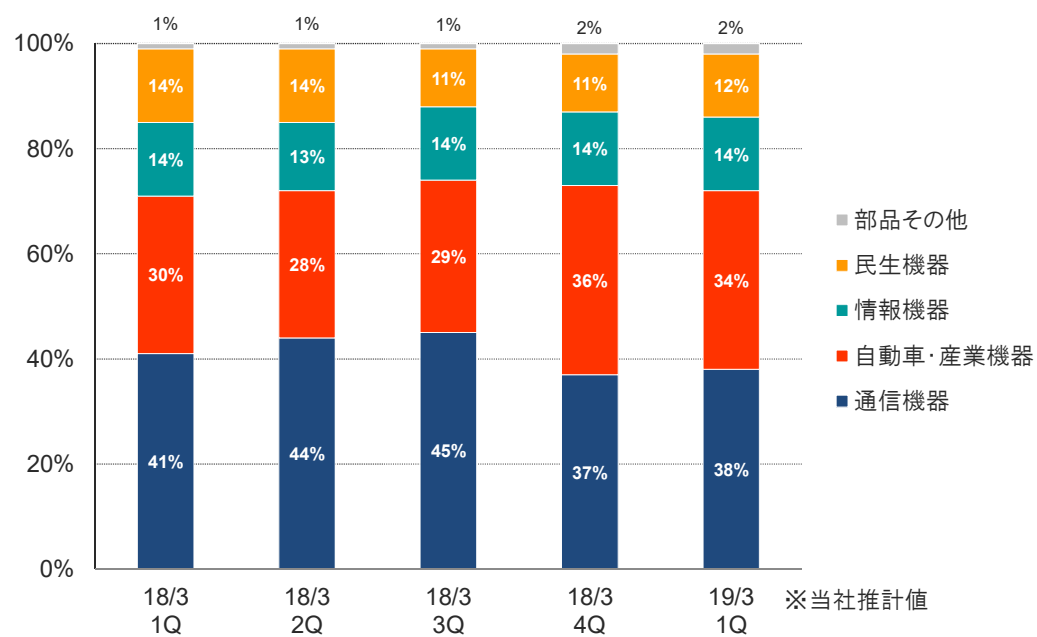


コンデンサの売上高は362億円。
 情報機器向けや自動車向けが第4四半期に対して増加したが、
 通信機器向けと産業機器向けが減少し、3%の減収。

フェライト及び応用製品は、売上92億円、前期比3%増収。
 民生機器向け、自動車向けで売上を伸ばした。

複合デバイスの売上高は132億円、前期比4%増収。
 中華圏スマートフォンの生産がやや上向き、FBAR/SAWデバイスの売上が増加。
 なお、複合デバイスの売上に占める通信デバイスの割合は、60%台半ば。

用途分野別売上構成



©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

7

用途分野別の売上構成比は、通信機器が38%。
我々が注力している自動車・産業機器向けは34%。
ターゲットの38%に向けて、着実に売上を伸ばしていく。

2019年3月期 連結業績予想

2019年3月期 連結業績予想

百万円	2019年3月期 上期				2019年3月期 通期			
	前回予想	今回予想	増減		前回予想	今回予想	増減	
売上高	125,000	130,000	5,000	4.0%	255,000	260,000	5,000	2.0%
営業利益	9,500	13,000	3,500	36.8%	21,000	24,500	3,500	16.7%
経常利益	9,000	13,500	4,500	50.0%	20,000	24,500	4,500	22.5%
親会社株主に 帰属する当期純利益	5,000	9,000	4,000	80.0%	13,000	17,000	4,000	30.8%
研究開発費	—				13,000	13,000	0	0.0%
設備投資額	—				43,000	43,000	0	0.0%
減価償却費	—				27,000	27,000	0	0.0%

- 上期・通期の業績予想を上方修正。上期のみ見直し、その増加分を通期予想に上乘せ。
第2四半期の期中平均為替レートは1米ドル110円と想定。
- 下期は期初予想を見直さず、据え置き。第3四半期以降の期中平均為替レートの前提は1米ドル105円。

※ 2018年4月に当社の連結子会社となったエルナー株式会社は業績予想を開示していないため、上記業績予想に同社に関する数値は含まれていません。

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

9

冒頭で話したとおり、上期の業績予想を見直したことにより、
5月時点の公表値を上方修正。
第2四半期の為替前提は、1ドル110円。

下期は、マクロ経済や為替変動、エレクトロニクス市場の先行きに
不透明感があるため、業績、為替前提とも期初予想からの見直しを行わず、
通期は上期の増加分を上乘せしたかたちで上方修正を行った。

2019年3月期 製品別売上高予想

百万円	2019年3月期 上期				2019年3月期 通期			
	前回予想	今回予想	増減		前回予想	今回予想	増減	
コンデンサ	77,500	80,500	3,000	3.9%	158,000	161,000	3,000	1.9%
フェライト 及び応用製品	19,000	20,500	1,500	7.9%	39,000	40,500	1,500	3.8%
複合デバイス	26,500	27,000	500	1.9%	54,000	54,500	500	0.9%
その他	2,000	2,000	0	0	4,000	4,000	0	0.0%
合計	125,000	130,000	5,000	4.0%	255,000	260,000	5,000	2.0%

各製品とも、上期の売上高予想を上方修正。
第1四半期から第2四半期にかけての売上の変化は、
コンデンサとフェライト及び応用製品がそれぞれ22%、
複合デバイスは4%の増加を見込む。

コンデンサの稼働率は、年間を通してフル稼働が続く見通し。
全社の在庫は、6月末から9月末にかけて約30億円減少する予定。

なお、6月末時点で200億円あった転換社債型新株予約権付社債(CB)については
7月5日に繰上償還を発表し、7月31日までに全て株式への転換請求があった。
この結果増加した株式数は973万7千株で、発行済株式数の約8%に相当。

補足資料

連結業績概要(前年同期比)

百万円	2018年3月期 第1四半期		2019年3月期 第1四半期		増減	
売上高	54,072	100.0%	59,576	100.0%	5,503	10.2%
営業利益	3,412	6.3%	5,981	10.0%	2,568	75.3%
経常利益	4,421	8.2%	6,896	11.6%	2,474	56.0%
親会社株主に 帰属する当期純利益	3,113	5.8%	5,645	9.5%	2,532	81.3%
対米ドル期中平均レート	111.81円		107.76円		4.05円円高	
為替変動による影響額	売上高 △11億円、営業利益 △13億円 ※米ドル以外の通貨影響含む					
研究開発費	2,794		3,246		451	16.2%
設備投資額	4,895		5,038		143	2.9%
減価償却費	6,193		6,065		△128	△2.1%

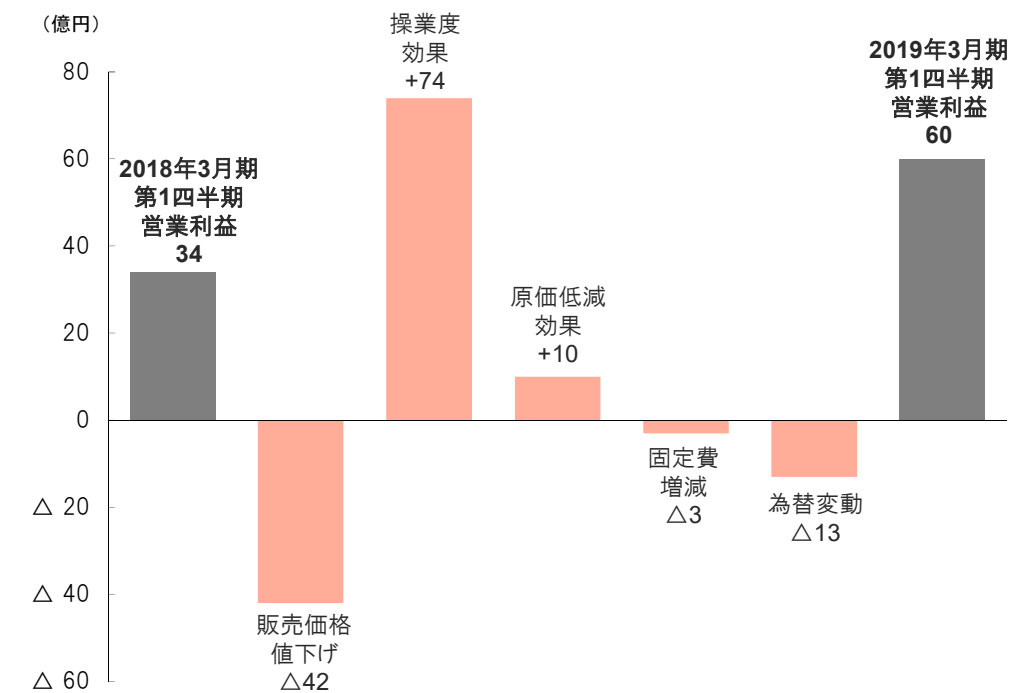
※ 2018年4月に当社の連結子会社となったエルナー株式会社の業績は、上記連結業績概要には含まれていません。

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

12

営業利益増減要因(前年同期比)

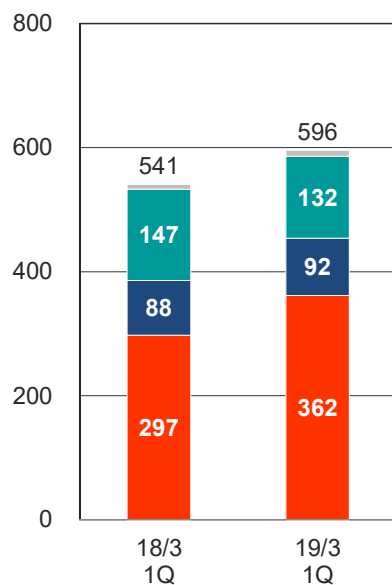


製品別売上高(前年同期比)

百万円	2018年3月期 第1四半期		2019年3月期 第1四半期		増減	
コンデンサ	29,747	55.0%	36,184	60.7%	6,436	21.6%
フェライト及び応用製品	8,847	16.4%	9,228	15.5%	381	4.3%
複合デバイス	14,711	27.2%	13,208	22.2%	△1,502	△10.2%
その他	766	1.4%	954	1.6%	188	24.6%
合計	54,072	100.0%	59,576	100.0%	5,503	10.2%

製品別売上高(前年同期比)

(億円)



■ **コンデンサ** (前年同期比+21.6%)

すべての機器向けで売上が増加。特に通信機器向け、自動車・産業機器向けが大幅増。

■ **フェライト及び応用製品** (前年同期比+4.3%)

民生機器向け、自動車・産業機器向けが増加。

■ **複合デバイス** (前年同期比△10.2%)

電源モジュールを中心に減少。

■ コンデンサ ■ フェライト及び応用製品 ■ 複合デバイス ■ その他

連結業績推移(四半期)

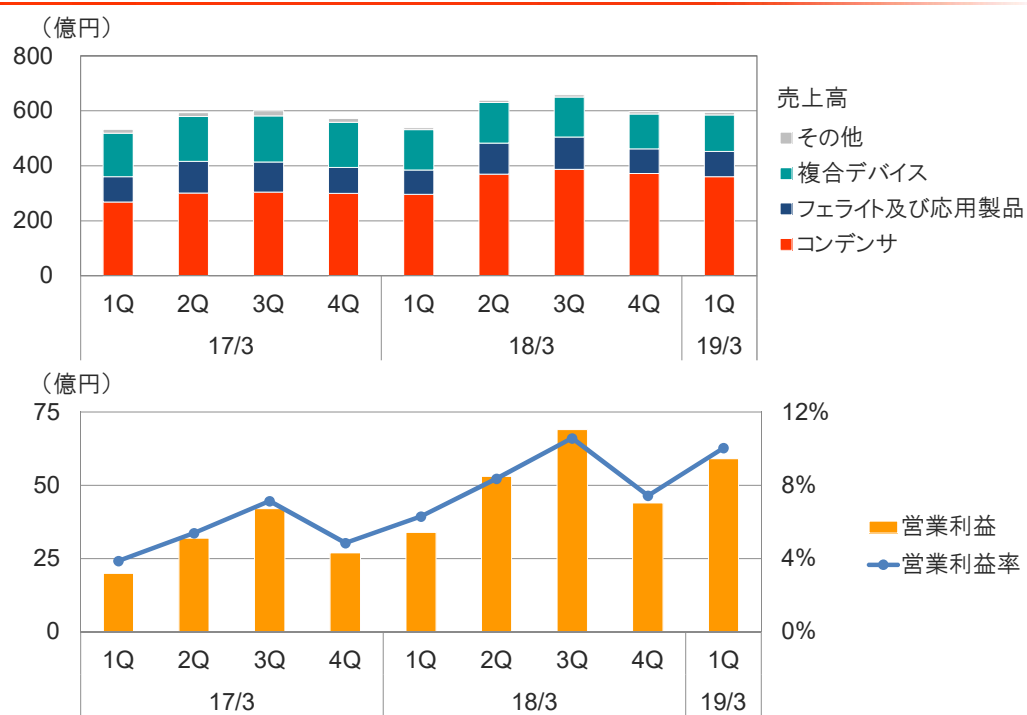
百万円	2017年3月期				2018年3月期				2019年 3月期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
売上高	53,471	59,561	60,185	57,498	54,072	64,107	66,053	59,883	59,576
コンデンサ	26,963	30,120	30,580	30,002	29,747	37,019	38,800	37,290	36,184
フェライト及び応用製品	9,243	11,594	10,959	9,475	8,847	11,376	11,746	9,006	9,228
複合デバイス	15,860	16,490	16,804	16,424	14,711	14,871	14,533	12,722	13,208
その他	1,404	1,355	1,841	1,595	766	840	972	863	954
営業利益	2,074	3,216	4,298	2,795	3,412	5,362	6,985	4,460	5,981
経常利益	829	2,202	6,676	1,491	4,421	5,599	6,596	3,935	6,896
親会社株主に 帰属する当期純利益	224	683	4,067	454	3,113	4,265	5,301	3,675	5,645
対米ドル期中平均レート	110.70円	103.69円	104.69円	114.63円	111.81円	111.11円	112.23円	110.62円	107.76円

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

16

連結業績推移(四半期)

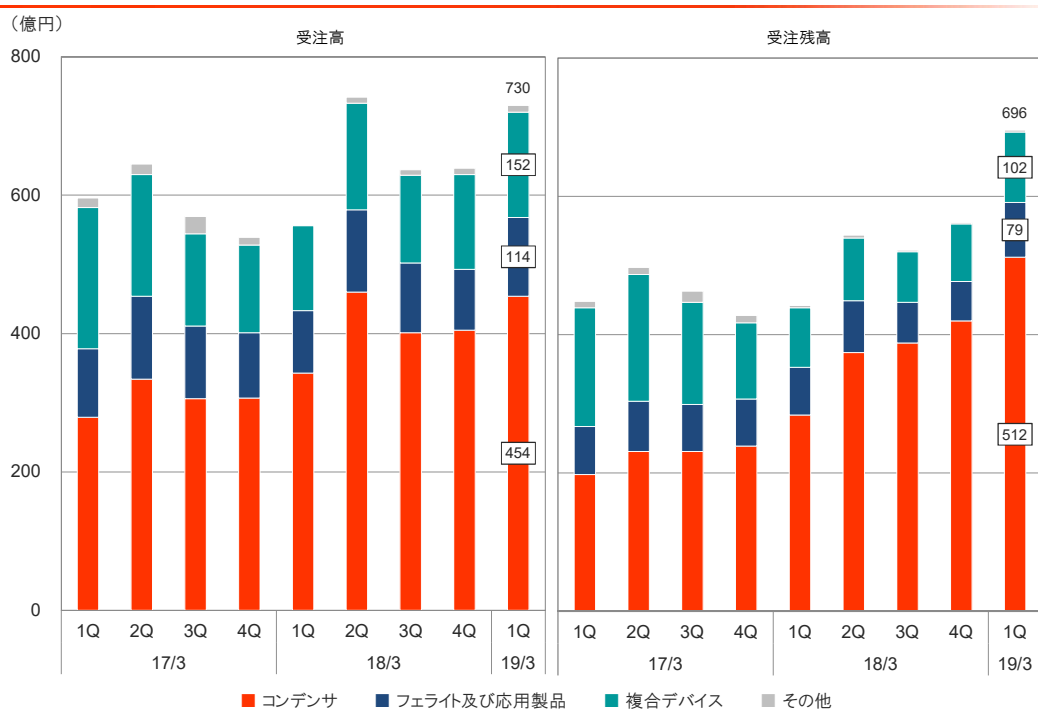


©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

17

受注高・受注残高推移(四半期)



当資料に記載されている、当社(太陽誘電株式会社、および当社グループ)に関する計画、業績見通し、戦略、確信等のうち、将来の記述をはじめとする歴史的事実ではないものは、すべて現在、当社が入手している情報に基づいて行った予測、想定、認識等を基礎として記載しているものであり、その性質上、客観的に正確であるという保証、ならびに将来その通りに実現するという保証はありません。実際の業績は、数々の要素により、現状の見通し等とは大きく異なる結果となりえ、かつ、当社が事業活動の中心とするエレクトロニクス市場は変動性が激しいことから、当資料に全面的に依拠することはお控えくださるようお願いいたします。

TAIYO YUDEN